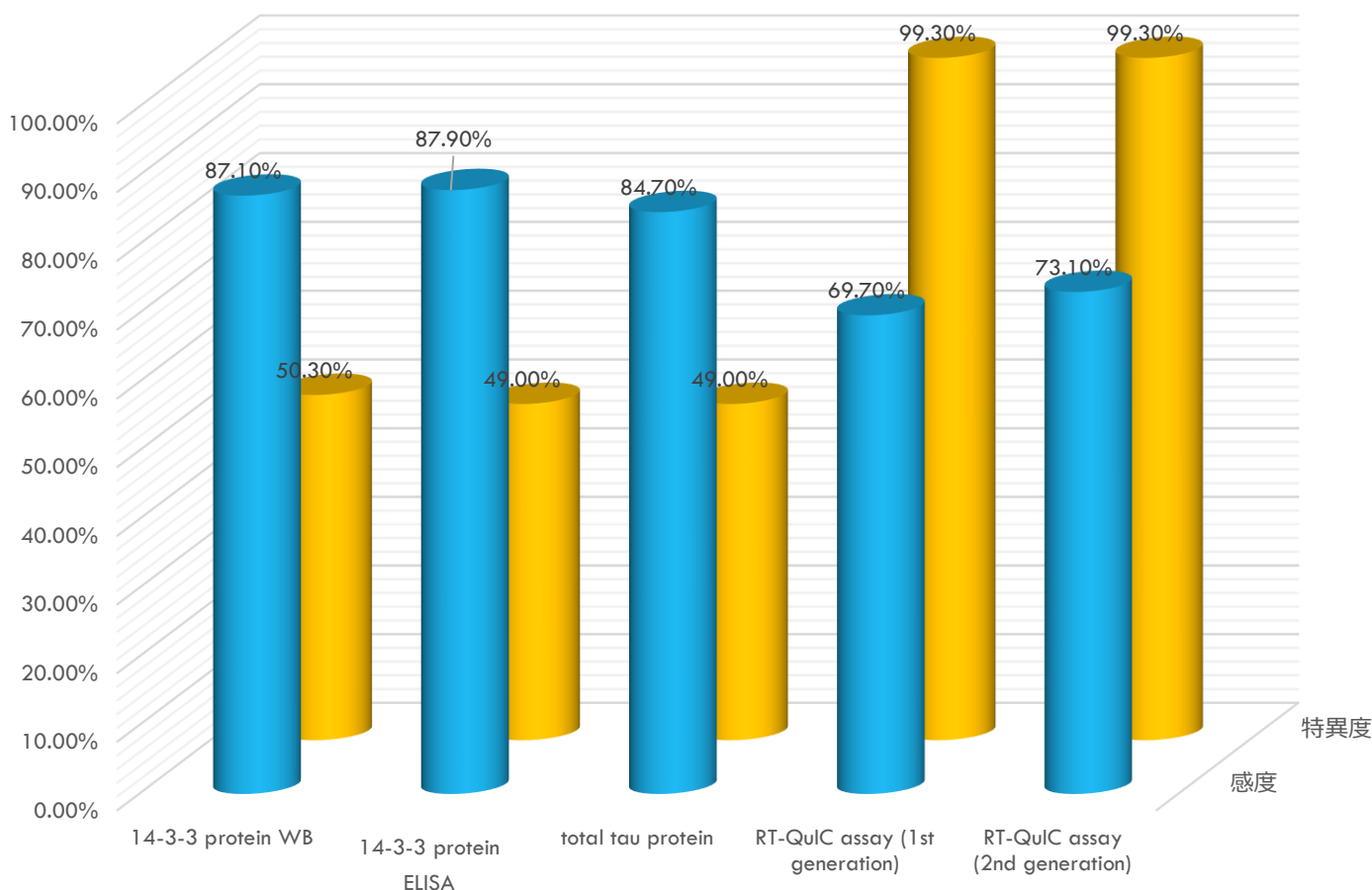


ヒトプリオン病患者の髄液中のバイオマーカーの解析と次世代QuIC法の開発

研究分担者：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健科学分野 佐藤克也



解 説

1. EUにおける2nd generation RT-QuICを採用し、反応時間は60時間、温度は53度、CSFは20ulとした。長崎大学に検査依頼された2024年2月と9月サーベイランス委員会に検討された485症例について前向きで髄液のバイオマーカーの検討を行った。

2. 485症例中プリオン病379症例、非プリオン病が106症例であった。

3. 14-3-3タンパクのWBとELISA法、総タウタンパクは、いずれも感度が高く陽性ケースの識別能力に優れる一方、特異度が低く陰性ケースの識別能力はやや低い。一方、第1世代および第2世代のRT-QuICアッセイは、感度は他のアッセイに比べて低いものの、特異度が非常に高く陰性ケースの識別能力が非常に高い。